

白藍塾オリジナル

2022入試小論文分析&解答のヒント

2022年4月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

● 慶応・法学部

課題文は、著名な哲学者の田中美知太郎の文章。書き方はエッセー調だが、抜粋の仕方が恣意的で、論理も入り組んでいるので、これをうまく要約するのは難しい。あえてわかりやすくまとめると、次のようになるだろう。

「戦争を悪とする道徳は当たり前のように思えるが、これはそう単純な問題ではない。実際には、戦争には勝者にとっては利得となるような面もあるが、それでも戦争は断じて悪であるとして、私たちは非難する。そうした道徳的な非難は、しばしば自分を棚に上げた一方的な断罪にすぎないものになってしまう。だが、戦争には侵略者と戦い、自由を死守するという正義の面もある。その意味では、正義／不正義の問題を抜きにして戦争を悪とみなすだけでは、そうした考えを道徳的に正当化することはできない。戦争をあくまでも悪とみなすとすれば、それは病気や貧困と同様、道徳ではなくむしろ政治の問題になる。病気や貧困の原因を取り除くように、戦争が起こる原因となるものを取り除くための法や政策を立法の場で追求することが、政治の本来の役割であり、平和への有効な努力となるはずだ」

こうした議論を要約した上で、「著者の立論に関連して考察を深める」ことが求められている。「具体的事例」への言及が求められているので、その点を見落とさないように注意する必要がある。

課題文の議論は入り組んでいて、はっきりとした主張を読み取りにくいですが、強引にまとめると、「①戦争には正義／不正義（正邪）の判断が伴うので、単純な悪として道徳的に断罪することはできない」「②戦争を単純な悪としてみなすのであれば、それはむしろ道徳ではなく、政治の問題となる」という2つのテーマが含まれていると言っていいだろう。したがって、問題提起としては、①と②のどちらも可能だ。

①であれば、イエスの立場では、「侵略戦争への抵抗まで悪とされてしまうと、侵略された国の国民の人権侵害を認めることになってしまう。明確に侵略的な意図のある戦争のみを悪とみなすべきだ」、ノーの立場では、「戦争に正義／不正義があることを認めてしまうと、侵略戦争であっても権力者によって正当化が可能になってしまい、歯止めが効かなくなってしまう。そうならないように、あらゆる戦争を悪とみなすべきだ」などが考えられる。

②であれば、イエスの立場では、「戦争は国家間の関係から生じるものなので、外交や条約の制定と

いった政治的な努力によってその関係を正常化することで解決できるはずだ」、ノーの立場では、「戦争を政治の問題としてのみ捉えるのは限界がある。戦争は歴史的背景や国家としてのアイデンティティーなどのかかわりで起こることが多く、それらを法・政治的な解決に委ねようとする、かえって事態が紛糾する恐れがある」などが考えられる。

いずれにしても、複数の論点を混同しないように、きちんと論を整理した上で論じることが大切だ。

©執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179) <https://hakuranjuku.co.jp>